



東白川小だより

令和6年1月19日(金) №11

校長 桂川 辰也



当い前に感謝！

1月9日、東白川小学校では当たり前のように三学期が始まりました。しかし、隣の石川県では能登半島地震により、多くの小中学校が三学期始業式を延期しました。再開した学校が増えてきましたが、通常の学校生活にはまだまだ程遠い状況だと聞きます。私たちの生活には、失って初めてそのありがたみに気付くことが多くあります。幸い、東白川村は被災しませんでした。改めて当たり前前に感謝して日々暮らしたいと思いました。

生きてさえいれば part2



「校長先生は、この冬休み中、雨の日も雪の日も毎日10km走ります！」

「持久走で6年生のHさんに一度も勝てなく悔しかったから、もう一度勝負して勝ちたいからです！」
二学期の終業式で子どもたちの前で宣言しました。

冬休み初日、朝5時に家を出ました。寒くて真っ暗でしたが、ヘッドライトを装着し走り始めました。ほどなくして左腰が痛くなりましたが、我慢して走っていると知らないうちに痛みが治まりました。今度は左足のくるぶし辺りが痛くなりました。これも、知らないうちに消えました。緩やかな上り坂を淡々と走って5km地点を折り返し、今度は緩やかな下り坂です。ペースが勝手に上がり気持ちよく走ることができました。残り2km付近で小さな段差につまずいて転び、服や手袋が破れてしまうというアクシデントはありましたが、何とか1時間4分で10km完走できました。3年前、毎朝5～10kmを走ってから出勤していた時期があったので軽く考えていたのですが、思った以上にしんどかったです。

翌朝も同じように自宅を出ました。走り始めた瞬間から左足のくるぶしの下が痛みました。そのうち消えるだろうと思い我慢して走り続けました。1km過ぎても2km過ぎても全然痛みが治まりません。それどころか、痛みが増してきました。「何故こんなに痛い？こんなところで止めたら嘘つきになってしまう！早く治まれ！」と、東白川小の子どもたちの顔を頭に浮かべながら我慢して走りました。前日快適だった下り坂は、左足への衝撃が増す最もつらい地点となりました。止めようか走ろうか、迷い続けているうちに結局二日目も完走しました。

三日目です。朝起きて足の痛みを感じながらも家を出ました。しかし、あまりの痛さに走り始めてすぐ自宅に引き返しました。「今走っても怪我を悪化させるだけだ」と自分に言い聞かせながらも、東白川小の子たちに嘘つくことになってしまったことを落ち込んでいました。家では妻から「若くないのにいきなり10kmなんて無茶するから・・・。」と叱られ散々でした。

そんな中で、1月1日の大地震です。「生きてさえいれば」という話を以前にもしたことがありますが、失敗したらやり直せばよいという単純なことを思い出しました。今度は本末転倒とならないよう、無茶な計画は止め、願いを叶えたいと思います。Hさん、もう少し時間をください。